

とみ ざわ おさ み
富 澤 修 身

学位の種類 経済学博士
学位記番号 経博第9号
学位授与年月日 昭和63年1月28日
学位授与の要件 学位規則第5条第1項該当
研究科・専攻 東北大学大学院経済学研究科（博士課程）
経済学専攻
学位論文題目 アメリカ南部ピードモント地域の経済構造
——南部綿業の展開（1865～1930）を中心に——
論文審査委員 （主査）
教授 金田重喜 教授 村岡俊三
教授 田中素香

論文内容の要旨

南北戦争後のアメリカ南部経済に関するわが国の研究史は、小作制プランテーションの展開に即して南北戦争後の南部経済の基本構造と位置を解明してきたが、プランテーション研究をさらに進めてプランテーション制度がこれ以外の南部経済といかなる経済構造を形成し、この経済構造がアメリカ資本主義の展開、独占の形成・確立とどうかかわったか、についてはほとんど明らかにしていない。従って、南北戦争後の南部経済の全体像を解明し、さらにこれと北部との関連を問う作業は道程半ばにあると言わざるをえない。

こうした基本認識にたつて、これまで看過されてきた重要な研究対象——南部綿業の展開——を取り上げることによって研究史を補足し、南北戦争後の南部経済の全体像構築——ウッドワード（C. Vann Woodward）の通説との関係では再構築にいささかでも寄与することが、本研究の基本目的であった。かくて、筆者は、南部綿業の展開（1865-1930年）を基軸にすえて、これとの関連で南部経済、特に南部ピードモント地域の経済構造と北部への依存・従属関係を明らかにすることを本研究の課題とした。時期の限定は、1930年代後半以降プランテーション小作制の解体が始まり、それ以前と同一視しえないためであり、また、

綿業を取り上げたのはこれまで看過されてきたうえに、当該時期の南部工業の基軸であり、しかも南部綿業と棉作農業、鉄道・電力等の公益事業との関連を問えるだけでなく、換言すれば南部の主要産業の個別分析の意義づけを明らかにできるだけでなく、北部の綿業・綿業関連資本との関連をも考察できるからであった。

以上のような基本認識と課題設定を踏えて、第1章では、1880年以降急速に展開した南部綿業に着目して、同工業の競争条件であった低廉な労働力と電力を足掛りに綿業を基軸かつ媒介にして南部のシェア・クロッピング制度と巨大電力システムとの結合を析出して南部ピードモント地域の経済構造を解明した。と同時に、北部の販売代理商への南部綿業の依存・従属関係を剔出して、南北戦争後の北部を中心とする再生産構造への南部経済の一包摂過程をも解明した。

だが、第1章の考察は南部綿業の展開に即したものであったため、シェア・クロッピング制度と電力事業はほぼ与件とされていた。そこで両者のうち後者を取り上げて南部ピードモント地域の経済構造理解をさらに深めようとしたのが第2章であった。同章では1920年代の南部電力事業の諸特徴——発電量の急増、先駆的な長距離高圧送電線網の建設、工業・動力用消費への高い依存率、高い集中度、モルガン系集団と Duke Power Co. の重要性——を明らかにしたうえで、まず、1920年代後半の集中過程でモルガン系公益事業集団に統合された Southeastern Power and Light Co. とその子会社 Georgia Power Co. の集中運動を考察し、次に、Georgia Power Co. と前身会社の事業活動を三期に分けて考察した。同時に、南部における電力地域独占の形成・確立過程における北部の金融業者、外国資本の役割りをも指摘した。

第2章で重要性を指摘しながら検討しえなかった電力会社 Southern Power Co. (後の Duke Power Co.) の考察が次の課題となった。ちなみに同社を取り上げたのは事業規模が大きかっただけでなく、1920年代後半に南部電力会社の多数が最終的に United Corp. の下位持株会社 Commonwealth and Southern Corp. や Electric Bond and Share Co. 傘下に組み込まれてゆく中で、Southern Power Co. (Duke Power Co.) は後進地域南部で独立集団としての地位を維持し続けたからであった。それ故、なぜ同社は独立性を維持しつつ南部綿業地区で電力事業地域独占を形成・確立しえたか、が同社検討の際の核心となった。この点は、タバコ工業の独占的企業 American Tobacco Co. の展開過程でデューク資本がいかに形成され、タバコ工業から得られた高利潤の一部が同資本によっていかに南部綿業、電力事業に投下されたか、を考察することにより明確になる。従って、Southern Power Co. の蓄積過程の検討はその前提として同社の支配株主であったデューク資本の形成過程の検討をも含むことになった。こうして、第3章、第4章によって第2章を補うとともに、デューク資本

の経営活動を追跡して、南部タバコ工業を筆者の「南部ピードモント地域の経済構造」理解に有機的に組込むことができた。

以上の作業で南部ピードモント地域理解は漸次深められたと思われるが、たんに同地域の経済構造の一翼を成すのみでなく、この性格を基本的に規定していたシェア・クロッピング制度の検討がまだ残っており、それゆえ南部ピードモント地域農業の検討が第5章の課題となった。但し、同章では研究史の成果を踏えた上で、これまでの諸章の研究に即した考察をした。つまり、南北戦争後の南部にあって、特に高地ピードモント地域で綿業が、より正確には綿業のみが、顕著な展開をみたという事実に関わる農業上の条件析出のため、同地域農業の位置と性格を検討した。これにより、南部綿業の形成・発展の重要な条件が南部農業の構造にまで掘り下げられたとともに、綿業という部分的ではあれ恒常的な工業化を許した南部農業の戦後の一側面が解明された。

1865-1930年の時期の南部経済に接近しようとする場合、その諸構成要素がどのように関連しあい、また、まったく対照的な・奴隷制プランテーションの再編形態とされた小作制プランテーション、シェア・クロッピング制度と巨大な独占的企業であったタバコ独占、鉄道独占、電力独占とがどのように関連しあって、当該時期の南部でいかなる経済構造を創出したか、しかもこの経済構造の形成過程で南部の北部へのいかなる依存・従属関係が新たに形成されたか、を解明する作業が是非必要であった。こうした作業を可能にする鍵が以上のように南部綿業の展開を基軸かつ媒介にした経済構造の析出であった。それゆえ、本研究の対象地域は南部ピードモント地域に限定されていたとはいえ、本研究によって農業研究が主であったこれまでのわが国の研究史を補いつつ、対象時期の南部経済の全体像構築のためひとつの不可欠な作業を成し遂げえたものとする。

論文審査結果の要旨

I

本論文は、従来のアメリカ南部経済研究が、小作制プランテーションの検討による南部経済の基本構造の解明に主眼を置き、南部がアメリカ資本主義の発展、独占の形成・確立に如何に関わったか、その際いかなる経済構造が形成されたか、という視点に欠けている現状を踏まえ、この視点から南北戦争後の南部経済の全体像の確立に貢献し、北部との関連を明らかにすることを目的としている。南部ピードモント地域を取りあげたのは、この地域が、当時南部の代表的な工業であった綿業が集中して、綿作農業と電力事業との結節点をなし、北

部資本との関係をも解明できる戦略的な位置にあったからである。

このため、本論文は

第1章 アメリカ南部ピードモント地域の経済構造

第2章 アメリカ南部電力事業の歴史的展開

第3章 アメリカ南部ピードモント地域とデューク資本（1）

——タバコ工業における資本蓄積（1865-1900年）——

第4章 アメリカ南部ピードモント地域とデューク資本（2）

——綿業・電力事業における資本蓄積（1892-1930年）——

第5章 高地ピードモント地域農業の位置と性格（1850-90年）

結 び

という構成をとる。

II

第1章では、従来の研究史によって確立された視角、すなわち、アメリカにおける後進地域南部が、南北戦争後、北部の産業資本を中軸とする再生産構造に包摂され、奴隷制プランテーションの再編形態であるシェア・クロッピング制度に基づくプランテーション小作制の生成・発展・消滅の歴史的過程によって、直接、間接に強く規定されており、ここに南部経済研究の固有の意義があるとの視角を踏まえ、南北戦争後から1930年までの南部経済を、南部綿業の発展を中心として検討する。

南部綿業は北部綿業に比較して急速な発展を遂げたが、この内実は、北部資本の南部進出（分工場建設、工場移転）と南部地元資本の蓄積によるが、後者の比重が相当高いことを指摘する。そして北部の不在所有による場合は言うまでもなく、南部地元資本による場合でも、北部の販売代理商が代理販売機能、金融機能（運転資本の貸付、機械販売の代償としての株式所有）、助言機能を持ち、一手専売権を行使して問屋制的支配下においたのであって、これが、アメリカ資本主義による南部包摂の重要な一環であることが示される。

そして北部に対する南部の競争上の優位の源泉は、①低賃金と劣悪な労働条件、②電化と電力コストの優位にあった。また、移民労働力に主として依拠していた北部に対し、南部は地元の白人労働者に依存したが、この出自はピーモンド地域の分収制度下で小農場を経営する白人小作農で、シェア・クロッピング制度下の黒人クロッパーと変わらない低い生活水準が、綿業労働者の低賃金を規定したこと、この低賃金労働者は、同時に兼業農民でもあったことを実証する。

第2章では、第1章で与件として扱われた南部電力事業をとりあげ、南部ピーモンド地域

の経済構造と北部への依存・従属関係を解明する。

ここでの基本的視点は、新興産業たる電力事業の南部での顕著な展開と綿作農業に規定された南部経済の後進性、停滞性との際立った対照であり、後者が南部電力事業に如何なる特質を刻印したか、電力事業の展開が南部経済に如何なるインパクトを与えたか、南部電力独占の形成がアメリカ電力独占の形成・確立とどう関わったか、金融資本との関連はどうか、を解明することである。

南部電力事業の特徴は、①全国平均を上回る発電量の急増、②大規模集中発電、先駆的長距離高圧送電網の建設、広域システム連繋の先駆的確立、③南部の貧困の反映としての工業・輸送用消費への高い依存度、④全国平均より遙かに高い集中度、⑤モルガン系集団と Duke Power Co. の特殊な重要性である。

河川での電源開発、急速な設備拡張計画、高圧送電網の建設に必要な巨大な資本の必要性が、ウォール街の中軸である J. P. モルガンへの依存をつよめ各電力会社が、同系 Southeastern Power And Light Co. へと集中される歴史的過程を詳細に叙述する。

モルガン主導下に電力独占は、家庭用電灯料金よりも遙かに安価な、北部よりも1/3は安い工業用電力料金を設定し、しかもその大半を綿業に配電する、という相互依存関係が示される。電力独占はその低料金を武器に資本を南部綿業に積極的にひきつける政策を展開したのであった。

第3章では、1920年代後半に南部電力会社の多数が、モルガン集団の傘下に編入されるなかで、最後まで後進地域南部で独立集団としての地位を維持しつづけたデューク資本の二つの柱、Southern Power Co. と American Tobacco Co. のうち、後者をとりあげ、デューク資本の形成過程を検討する。

デューク一族は、綿業と並んで南部の代表的産業である南部タバコ産業に立脚し、①一部行商によって直接販売される以外は、大部分 New York の販売代理商を介していた販売過程を変革し、代理商を排除して、セールスマン、卸小売商ルートに切り換えることによって、流通利潤を排除したこと、②新鋭技術を逸早く採用し、従来のユダヤ系移民熟練労働力にかえて、婦人、児童を含む地元の、黒人を主体とする不熟練労働力と結合して、生産コストを削減したこと、③消費税の減税、生産コスト削減による価格切り下げ、大量宣伝により競争上の優位を確保したこと、④企業合同を加速し、機械メーカーと設備供給制限協定を結び、南部タバコ資本から全国的タバコ独占に成長したこと、⑤この過程でデューク一族は合同・吸収時の過大資本化、水割り株の発行、会社支配の少数株主への集中、少数株主への高額・高率配当を実現したこと、⑥購入独占により、葉タバコ農民からの買付価格を押さえ、収奪

したことを明らかにする。

第4章では、1911年の反トラスト法判決を契機として、デューク資本は経営を多角化し、タバコ独占から南部綿業と電力事業へ立脚基盤を移行する歴史的過程を詳細に考察する。

デュークは綿業投資を拡大する過程で綿工場の動力源として水力発電に注目し、当時創成期にあった南部電力事業に参入し、地域独占となるが、この過程を時期区分をして検討をする。当初綿業への給電は全出力の8割を占め、蒸気力に比して1/2のコストですむ電化が、南部綿業の競争上の優位を規定したのである。また、デュークは市電、電鉄の買収、創立により、安価な電力を誘因とする工場誘致運動を展開して、電力市場を創出し、かつ、タバコの独占利潤をここに集中して、建設・設備拡大と企業合併により、Southern Power Co. (Duke Power Co.) の地域独占を確立する。J. P. モルガンに対抗して、デュークが地域独占を形成しえた根拠は、デュークが綿業への給電を独占したこと、タバコ独占に依拠しえたことにある。南部綿業と電力、鉄道との産業連関は明白である。

デュークはピーモンド地域の蓄積の諸条件—綿作、綿業、葉タバコ栽培、タバコ加工、河川水力資源、プア・ホワイト、黒人労働者などを直接・間接に統合して、地域経済構造の中軸を形成し、独占確立期のアメリカ金融資本の一翼を構成するのである。

第5章では、これまで与件として扱われてきた綿作と葉タバコ栽培を規定するシェア・クロッピング制度を取扱い、「安価で、豊富で、従順な」白人綿業労働力の創出を検討する。

筆者は、1850-90年の期間について、州だけでなく、郡単位でセンサスを綿密に検討し、以下のごとき結論を引出す。

①戦後綿作は、黒人奴隷解放後の南部において、新たな労働、信用形態の形成と並行して展開されたこと、②綿作は戦後、テキサスでの急増、西漸化が著しいこと、③高地ピードモント地域での綿作の急増は、シェア・クロッピング制度、クロープ・リエン制との関係での再編の結果であること、④戦前は黒人の多い地域で綿作が見られたが、戦後は白人農場の多い地域で大規模に行なわれ、しかも、白人小作農比率が高く、現金小作農よりも農業プロレタリアに近い分収小作農比率が高いこと、⑤戦前高地ピードモント地域は、自給的白人小農民地域で、商品生産、商品市場はまだ、萌芽的であったが、鉄道の発展とあいまって戦後綿作に傾斜して自給率が低下し、白人が分収小作農化し、商業的肥料を投入して綿作に特化するとともに、綿花、食料、肥料を主軸とする商品市場と商人層が形成され、一方における富の蓄積と他方におけるクロープ・リエン制に縛られた、不安定で劣悪な、膨大なプア・ホワイトの累積が展開される。

白人分収小作農と白人農業労働者からなるこのプア・ホワイトが綿業にとっての「安価で、豊富で従順な労働力」となる。同時にこのプア・ホワイトにとって、リリー・ホワイト原則の綿業が、社会的安全弁として機能する。

この論文はこの過程を検出して、この富の蓄積、商人層の形成から南部の綿業資本が成長するとし、戦後南部綿業形成の三条件—綿花、プア・ホワイト、資本—の分析を結ぶ。

III

以上が本論文の骨子であるが、従来の研究との関連で、とりわけ以下の諸点をメリットとして確認しうる。

①南部綿業についての我国の研究は少なく、アメリカ綿業研究の一環としての南部綿業研究では、労働力源泉としての南部シェア・クロッピング制度との関連の究明が不十分であり、南部農業研究からの南部工業論では停滞性のみが強調されて、実証分析がなされていないのに対し、本研究は南部綿業の高度成長の二大源泉として、電化・巨大電力システムと低賃金労働を提示し、かつ、包摂の具体的形態として北部綿業資本の南部進出と北部代理商による南部綿業の間屋制的支配=従属を明らかにしたこと。

②従来の電力事業研究は、アメリカ独占資本主義研究の一環として、電力公共事業の特殊性—利潤率規制、資本調達、持株会社、資本集中など—の解明に力点があり、地域独占として地域経済との関係で具体的に論じた研究はなく、南部電力事業については TVA 研究で言及されるに留まっていた。

筆者は南部ピードモント地域の地域構造分析の一環として、綿業との関係を念頭におきながら、1920年代の南部電力事業の特質—発電量の急増、先駆的な長距離高圧送電線網の建設、広域システム連繋、工業、動力用消費の高い比率、高い集中度、モルガン系集団とデューク系集団の重要性を指摘し、モルガン系 Southern Power And Light Co. を事業会社のレベルまで掘り下げて検討して、南部における電力地域独占の形成・確立での北部金融業者の役割—北部による南部包摂のもうひとつの形態—を明らかにし、南部電力会社の多数が、最終的にモルガンに吸収されたのに、デュークが独立集団として存続した根拠を明らかにした。これにより筆者は、南部電力事業の研究が南部経済史研究にとって不可欠であることを示し、金融資本研究としても優れた実証を行なった。

③タバコ独占から綿業、電力事業へと展開したデューク資本についての研究は、我国で初めての研究であり、資料的価値は高い。新鋭技術と黒人不熟練労働力とを結合し、販売代理商を排除し、価格切り下げ、大量宣伝、大量販売により、葉タバコ農民の収奪により、全国的独占に成長転化する過程の分析、タバコの独占利潤を基礎として綿業、電力事業へと多角化し、地域経済との密接な関わりで独占集団を構成する過程の分析は、出色である。

④従来の研究は、綿作、シェア・クロッピング制、クロープ・リエン制の検討、プランテーション内のホーム・ファームの析出によって、南北戦争後の南部農業の基礎構造と位置を、小作制プランテーションに即して解明したが、南部地域の細区分と南部白人小農の検討は、不十分であった。これにたいし、筆者は、センサスの分析により、綿作化の規模と速度、プア・ホワイト化という二つの視角から、戦後南部農業の基本構造＝商品経済の発展と農民層分解を検討し、資本、綿花、プア・ホワイト（労働力）の形成を実証している。

これにより、南部綿業の形成・発展の重要な条件が、南部農業の構造との関係で掘り下げられ、高地ピード蒙特地域の経済構造の基本的性格が規定される。

⑤1865—1930年の時期の南部経済について、その諸構成要素がどのように関連・規定しあい、又、まったく対照的な奴隷制プランテーションの再編形態である小作制プランテーション、シェア・クロッピング制度と巨大なタバコ独占、鉄道独占、電力独占とが、いかなる関連で、この時期の南部経済構造を創出したか、この形成過程で南部の北部へのいかなる依存・従属関係を展開したか、を解明している。

以上を総括すれば、本研究は、その対象を南部ピード蒙特地域に限定しているとはいえ、従来、農業研究が主であったこれまでの我国の研究史を補いつつ、資本、労働、インフラストラクチャーの各側面を分析することにより、対象時期の南部経済の全体像構築のための不可欠な作業を成し遂げたと考える。

以上審査するところにより、本論文は経済学研究科博士課程終了論文として合格と判定する。